

# 豊かな食生活を提供 “つなぎ”の役割、より広く



▲加藤 和弥社長

グループのミッションは『『豊かな食生活』を提供し、人々の幸せを実現すること』。その達成へ向け「食のインフラ」、「食のプロフェッショナル」、「食のプロデューサー」になることをビジョンに掲げる。具体的には商品と情報、ロジスティクスの総合力を発揮し、食生活を支える基盤を作る（食のインフラ）。食品流通に携わるプロとして知識やスキルを磨き、豊かな食生活を提供する（食のプロフェッショナル）。“つなぎ”の役割を実現し食の価値を創造する（食のプロデューサー）。

加藤和弥社長は「多くの生産者や仕入先の存在があってはじめて、『豊かな食生活』を提供できる。『豊かさ』の意味が時代によって変化しても、それに合わせた価値を提供できるようにサプライチェーン全体をコーディネートし、社会に貢献する存在であり続けるために、機能を強化していく

ことが大事」と強調する。コロナ禍で社会は大きく変化したが「つなぎ、が卸売業として基本の役割であり、存在意義でもある」との考えは変わらない。「オンラインなどつながり方は変わったが、バーチャルとリアルの世界を行ったり来たりしながら、その役割を幅広くこなしていく必要がある」。

食と自然環境のつながりも重要だ。「ESGの課題を意識し続けることで当社のサステナビリティが向上し、将来的にSDGsの目標達成にも貢献できる。特に食は自然環境と密接につながっており、一次産業の基盤である地球の自然環境を健全に保つ努力をしなければ、当社のビジネス基盤も徐々に失われるだろう」。

グループでも環境保全活動を推進し、ISO14001に基づくマネジメントシステムを構築。2013年度を基準にCO2の排出量削減を推進しており、20年度は9%、売上高あたり原単位では26.1%の削減を実現した。また、現在9事業所に太陽光発電システムを設置し、再生可能エネルギーの創出に取り組んでいる。昨年は物流管理へのAI技術有効活用が評価され、サプライチェーンイノベーション大賞の優秀賞を受賞した。

地球環境だけではない。地元の兵庫県西宮市では、市内の小学校41校へ読書手帳を贈呈し、子どもたちが本に触れる機会を増やした。当社では昨年、フードドライブの活動をテスト的に開始、今年から本格的に取り組んでいる。こうした地域での地道な活動も社員の意識向上に貢献している。



▲グループミッション